

機 械

1. 評価対象企業（20 社）

アマダホールディングス、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、日本精工、NTN、ジェイテクト、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、IHI

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	13
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	14
計		20	100

（注）具体的な評価項目および配点は 51 頁参照

(2) 評価実施アナリストは 28 名（20 社）である。（52 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（50 頁）参照）

① 当業種は、2017 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2016 年度の数値（以下「前回」という。）である。本年度は前回の具体的評価項目のうち、**経営陣の IR 姿勢等**を含む 4 分野において、項目の新設、削除、内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.0 点（前回 69.3 点）、総合評価点の標準偏差は 12.2 点（前回 11.1 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 73%（前回 72%）、**説明会等**が 74%（前回 73%）、**フェア・ディスクロージャー**が 73%（前回 61%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 69%（前回 72%）、**自主的情報開示**が 68%（前回 61%）となった。5 分野のうち**コーポレート・ガバナンス関連**を除く 4 分野で前回は上回り、特に、前回最も低水準であった**フェア・ディスクロージャー**と**自主的情報開示**が改善し、**コーポレート・ガバナンス関連**が若干低下したことから、分野間の格差は縮小した。

③ 評価項目について見ると、全 20 項目中次の 5 項目が平均得点率で 80%以上となった。

(a) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 91%）（得点率（評価点／配点（以下省略））：95%7 社・90%11 社・85%1 社）

(b) 「決算説明会資料の英語版は説明会当日にホーム・ページでも入手が可能ですか」（平均得点率 90%）（得点

率：100%18社)

- (c)「投資家にとって重要な事項（業績変動、合併・提携、リスク情報等）の開示は遅滞なく行われ、かつP/L・BSに与える影響を可能な範囲で開示していますか」（平均得点率89%）（得点率：100%1社・95%6社・90%6社・85%4社・80%1社）
- (d)「日本語の統合報告書（ESG等の非財務情報も含む）またはアニュアルレポートを作成していますか」（平均得点率82%）（得点率：100%16社）
- (e)「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか」（平均得点率80%）（得点率：100%16社）

④ 一方、次の3項目は平均得点率が50%台と低水準であり、フェア・ディスクロージャーの中項目の「ホーム・ページにおける情報提供」の項目（(f) (g)）は、一部の企業に改善が見られるものの、前回に続き0点評価の企業が約半数あり、これらの企業において今後の改善の努力が強く望まれる。

- (f)「決算説明会等での質疑応答の内容がホーム・ページでも分かるようになっていきますか」（平均得点率50%）（得点率：100%10社・0%10社）
- (g)「決算説明会等の内容はホーム・ページで動画または音声で視聴できますか」（平均得点率55%）（得点率：100%11社・0%9社）
- (h)「会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG説明会等を実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率59%）（得点率：20%台2社・30%台1社・40%台4社・50%台2社・60%台2社・70%台7社・80%台2社）

⑤ なお、本年度に新設した下記2項目については、次のとおりとなった。

- (i)「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、建設的な対話を通じて、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率72%）（得点率：80%台4社・70%台11社・60%台3社・50%1社・40%1社）
- (j)「日本語の統合報告書（ESG等の非財務情報も含む）またはアニュアルレポートを作成していますか」（平均得点率82%）（得点率：100%16社・33%1社・0%3社）（上記③(d)参照）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 小松製作所（ディスクロージャー優良企業〔8回連続12回目〕、総合評価点91.7点〔前回比+2.1点〕）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（得点率〈以下省略〉89%）、説明会等（93%）、フェア・ディスクロージャー（99%）、自主的情報開示（92%）の4分野において第1位、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第1位（86%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、CEOが会社主催の説明会で自身の考えを明確に説明していることなど、経営陣のIR姿勢が最も高く評価された。また、IR部門が、アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等において、十分に機能していることも極めて高い評価となった。さらに、「IRの基本スタンス」に関して、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業について積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも評価されたほか、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、建設的な対話を通じて、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第1位となった。
- ③ 説明会等においては、説明資料等において投資家が求める情報（業界動向、収益動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提）が十分に開示されていることが高く評価された。また、決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明が、背景説明を含め分かりやすいことなど極めて高い評価となった。さらに、月次データなど有益な情報をホーム・ページに開示していることや、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が継続性を含め十分に開示されていることも極めて高く評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢が最も高く評価されたことに加え、ホーム・ページにおいて決算説明会等の内容が資料と音声で視聴できること、質疑応答の内容も開示されていることなど、「ホ

ーム・ページにおける情報提供」が満点評価となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが評価された。また、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について十分に説明されていることも高く評価された。さらに、資本政策や株主還元策が十分に説明されていることも高い評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の工場見学等」に関して、「コマツ IR-DAY」（事業説明会、ESG 説明会）や国内外の事業所見学会を開催し、内容が充実していたことにより、最も高く評価された。また、「日本語の統合報告書（ESG 等の非財務情報も含む）またはアニュアルレポートを作成していること」が同得点第 1 位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 ダイキン工業（高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業、総合評価点 85.7 点、[前回比+2.1 点]、前回第 3 位 [前々回第 2 位]

- ① 同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 1 位（86%）、**経営陣の IR 姿勢等**（88%）、**説明会等**（88%）、**フェア・ディスクロージャー**（98%）が第 2 位、**自主的情報開示**が第 17 位（64%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、会社主催の説明会に CEO が出席し、方針や課題について説明していることが高く評価された。また、**IR チーム**（東京・大阪）について、アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度度等において十分に機能していることが第 1 位の評価となった。さらに、「**IR の基本スタンス**」に関して、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業について積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも評価されたほか、「**フェア・ディスクロージャー・ルール**の導入を機会に、情報開示を後退させることなく、建設的な対話を通じて、より積極的に情報開示を行っていること」も高い評価となった。
- ③ **説明会等**においては、説明資料等において投資家が求める情報（業界動向、製品別動向、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提）が十分に開示されており、評価された。また、決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明が、背景説明を含め、分かりやすく高い評価となった。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が開示されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢が極めて高い評価となったことに加え、ホーム・ページにおいて決算説明会等の内容が資料と音声で視聴できること、質疑応答の内容も開示されていることなど、「ホーム・ページにおける情報提供」が満点評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め説明されていることが評価された。また、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について十分に説明されていることも極めて高い評価となった。さらに、資本政策や株主還元策が説明されていることも高く評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の工場見学等」に関して、CSR 説明会を開催し、充実した内容であったことにより、最も高く評価された。

同社は 3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業**」に選定した。

第 3 位 安川電機（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 82.9 点 [前回比 +13.9 点]、前回第 11 位]

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（98%）、**自主的情報開示**（85%）が同得点第 3 位、**説明会等**が第 5 位（84%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 5 位（75%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 6 位（78%）となり、5 分野全ての得点率が前回は上回った。特に、**フェア・ディスクロージャー**において、前回比、得点率で+70 ポイント、評価点で+9.1 点、**自主的情報開示**において、前回比、得点率で+15 ポイント、評価点で+2.1 点改善したことなどにより、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第 1 位、順位の上昇幅

で同点第1位)につながった。

- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、社長が会社主催の説明会に出席し、その内容が充実していることが評価された。また、IR部門へのアクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等も評価された。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入を機会に、情報開示を後退させることなく、建設的な対話を通じて、より積極的に情報開示を行っていること」は同得点第7位であった。
- ③ **説明会等**においては、説明資料等において投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、決算期変更の影響）が開示されていることが評価された。また、決算説明会における会社側の説明・質疑応答も評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が開示されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢が高く評価されたことに加え、「ホーム・ページにおける情報提供」の3項目（決算説明会等の内容が資料と音声で視聴できること、質疑応答の内容が分かること、説明会資料の英語版を説明会当日に開示すること）を実行したことなどにより、著しい改善となった。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の工場見学等」に関して、事業説明会を開催し、充実した内容であったことが評価された。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 日立建機（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 81.4 点〔前回比+11.0 点〕、第 4 位〔前回第 10 位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第2位（86%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（98%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第5位（75%）、説明会等が第6位（82%）、経営陣のIR姿勢等が同得点第10位（73%）となり、5分野全ての得点率が前回を上回った。特に、自主的情報開示が前回比、得点率で+23ポイント、評価点で+3.3点改善したことなどにより、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅、順位ともに第3位）につながった。
- ② 自主的情報開示においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の工場見学等」に関して、「ConSite 説明会」、「Solution Linkage 説明会」などにより、同社独自の取組が良く理解できたとの声があった。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

○ クボタ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 80.3 点〔前回比+13.2 点〕、第 7 位〔前回第 15 位〕）

- ① 同社は、説明会等が第4位（85%）、経営陣のIR姿勢等が同得点第4位（80%）自主的情報開示が同得点第7位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第11位（74%）などとなり、4分野の得点率が前回を上回った。特に、フェア・ディスクロージャーが前回比、得点率で+46ポイント、評価点で+6.0点、説明会等が前回比、得点率で+22ポイント、評価点で+8.1点改善したことなどにより、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第2位、順位の上昇幅で同点第1位）につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IRの基本スタンス」に関して、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入を機会に、情報開示を後退させることなく、建設的な対話を通じて、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第1位となったことに加え、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業について積極的な開示を行い、今後の展望を示していることも評価された。
- ③ **説明会等**においては、四半期ごとの業績動向に関する電話会議を開催したことから、得点率、評価点が改善した。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、決算説明会等での質疑応答の内容、決算説明会資料の英語版をホー

ム・ページで開示したことから、得点率、評価点が改善した。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2018年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（機械）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 28点)		評価項目5 (配点 32点)		評価項目5 (配点 13点)		評価項目4 (配点 13点)		評価項目2 (配点 14点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6301 小松製作所	91.7	25.0	1	29.7	1	12.9	1	11.2	1	12.9	1	1
2	6367 ダイキン工業	85.7	24.5	2	28.3	2	12.8	2	11.2	1	8.9	17	3
3	6506 安川電機	82.9	21.7	6	26.8	5	12.7	3	9.8	5	11.9	3	11
4	6305 日立建機	81.4	20.5	10	26.3	6	12.7	3	9.8	5	12.1	2	10
5	6370 栗田工業	80.9	22.4	4	26.1	7	12.6	5	9.7	7	10.1	12	4
6	7011 三菱重工業	80.5	20.8	9	25.9	9	12.3	8	9.6	8	11.9	3	2
7	6326 クボタ	80.3	22.4	4	27.1	4	9.6	11	9.6	8	11.6	7	15
8	7013 IHI	77.1	20.9	8	26.1	7	12.5	6	8.3	14	9.3	14	9
9	7012 川崎重工業	76.8	19.5	15	24.4	11	12.5	6	8.6	12	11.8	6	7
10	6302 住友重機械工業	73.9	20.1	12	24.1	12	9.5	12	8.6	12	11.6	7	7
11	6268 ナブテスコ	73.1	19.7	14	23.5	15	9.7	9	9.4	10	10.8	10	5
12	6471 日本精工	72.5	23.4	3	20.2	16	6.7	13	10.3	4	11.9	3	12
13	6361 荏原製作所	71.3	20.5	10	23.7	13	6.7	13	9.0	11	11.4	9	13
14	6113 アマダホールディングス	69.6	21.7	6	27.5	3	6.7	13	10.8	3	2.9	18	6
15	6472 NTN	67.9	19.0	16	24.8	10	6.6	17	8.0	15	9.5	13	14
16	6481 THK	63.2	19.9	13	16.5	19	9.7	9	7.9	18	9.2	15	17
17	6586 マキタ	58.2	18.2	17	23.7	13	6.7	13	7.3	19	2.3	19	18
18	6954 ファナック	56.4	12.2	20	19.4	17	6.4	18	8.0	15	10.4	11	19
19	6473 ジェイテクト	55.6	18.2	17	16.6	18	3.6	20	8.0	15	9.2	15	16
20	6273 SMC	41.2	15.7	19	12.9	20	5.9	19	4.9	20	1.8	20	20
	評価対象企業評価平均点	72.04	20.32		23.69		9.44		9.01		9.58		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は12.2点(前回11.1点)であった。

2018年度 評価項目および配点(機械)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (28点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 会社主催の説明会に社長または会長が出席し、その内容は充実していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等)	8
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、建設的な対話を通じて、より積極的に情報開示を行っていますか。	5
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (32点)
(1) 説明資料等(短信およびその付属資料・説明会資料)における開示	
・ 投資家が求める情報(業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響)が十分に開示されていますか。	9
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明(質疑応答を含む)は十分ですか。	5
② インタビューにおける会社側の説明(質疑応答を含む)は十分ですか。	5
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [開催あり:8点 開催なし:0点]	8
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が継続性も含め十分に開示されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (13点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要な事項(業績変動、合併・提携、リスク情報等)の開示は遅滞なく行われ、かつP/L・B/Sに与える影響を可能な範囲で開示していますか。 [当該事項の発生がなかった場合には満点評価とする]	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① 決算説明会等の内容はホーム・ページで動画または音声で視聴できますか。	3
② 決算説明会等での質疑応答の内容がホーム・ページでも分かるようになっていますか。	3
③ 決算説明会資料の英語版は説明会当日にホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (13点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について十分に説明していますか。	4
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、持合政策、最適資本構成等)に関し十分に説明していますか。	3
② 株主還元策(配当政策や自社株取得等)に関し十分に説明していますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14点)
① 会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG説明会等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	8
② 日本語の統合報告書(ESG等の非財務情報を含む)またはアニュアルレポートを作成していますか。(ホーム・ページ可) [統合報告書作成あり:6点 アニュアルレポート作成あり:2点 共に作成なし:0点]	6

機械専門部会委員

部 会 長	齋藤 克史	野村證券
部会長代理	田井 宏介	大和証券
	石塚 大	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大内 卓	SMBC 日興証券
	黒田 真路	クレディ・スイス証券
	佐野 友彦	JP モルガン証券

評価実施アナリスト(28名)

石塚 大	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	大門 明子	三菱 UFJ 信託銀行
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	田中 英太郎	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
大内 卓	SMBC 日興証券	谷林 正行	QUICK
大平 光行	東海東京調査センター	田村 真一	極東証券経済研究所
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	柊 宏二	QUICK
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	福元 千佳	シティグループ証券
黒田 真路	クレディ・スイス証券	グレアム マクナット	シティグループ証券
小山 誠	富国生命投資顧問	水野 晃	UBS 証券
齋藤 克史	野村証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
笹尾 飛鳥	SMBC 日興証券	宮城 大和	みずほ証券
佐々木 翼	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	安岡 智史	三井住友信託銀行
佐野 友彦	JP モルガン証券	山崎 みえ	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
添谷 昌生	りそな銀行	若栄 正宣	みずほ証券
田井 宏介	大和証券	渡辺 洋一郎	水戸証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。